

令和7年度第2回京丹後市観光立市推進会議 会議録

1 開催日時 令和8年3月19日（木）午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 峰山総合福祉センター 西館 2階 コミュニティホール

3 出席者等 坂上英彦会長、田中智子副会長、和田正人委員、末次一子委員、丸田智代子委員、加藤基次委員、中川秀雄委員、山口洋子委員、味田佳子委員、松尾信介委員、鎌田誠委員、田矢佳子委員、伊豆田千加委員、谷口正郎委員、大亀一穂委員、下戸善子委員、佐渡谷有希委員、中川世土委員、亀谷義忠委員

事務局	(一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	中山彰人
	京丹後市商工観光部	高橋尚義
	〃 商工観光部観光振興課	木本貴文、田中涼子 橋本琢人、桑原伸吾

4 傍聴人の数 0

5 発言の内容（要旨）

<高橋商工観光部長>

本日は大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

定刻、1時30分となりましたので、ただいまから令和7年度第2回京丹後市観光立市推進会議を開催をさせていただきます。本日全体の進行をさせていただきます京丹後市商工観光部の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日ご出席の皆様をご紹介させていただきたいと思いますが、時間の都合上、配席表をご確認をいただきたいと存じます。海の京都DMOの亀谷様、商工会観光業部会の加藤様のお2人がまだこれから来られるということでお聞きをしております。また、日本航空の佐渡谷様ですけれども、のちほどオンラインでご参加をいただくということになっておりますのでよろしくお願いいたします。

また本日、浅田様、島田様、浜口様、坂根様、上田様、高尾様、飯島様、小笹様の合計8名の方は、委任状をご提出いただいているということで本日はご欠席となっております。従いまして、委任状も含めまして本日の出席26名ということで、委員定数の半数以上を満たしております。京丹後市観光立市推進条例第28条の第2項によりまして、会議が開催できますことを報告させていただきます。

それでは、開会にあたりまして坂上会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

<坂上会長>

こんにちは。お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。

今日は、今年度の進捗状況について皆様のご意見をお伺いすることになるんですけども、日本の国としては、インバウンドが過去最高の状況にあつて、特にヨーロッパの方々が非常に増えているということで、キーワードとしては何かプレミアムな観光地づくりというのが必要ではないかなというふうに感じております。

一方、国内観光は低迷が続いておりますので、京丹後市においてこの2つの課題、インバウンドをどう取り扱うのか、国内観光の全体の低迷にどう対応していくのかというようなことも視野に置く必要があろうかなと感じております。

これらを踏まえて、今日の皆様のご意見も賜ることができましたら、大変ありがたいなと思っております。また最後に、その他で次年度計画についてもご報告があるということで、ご意見があれば、お聞かせいただけるとありがたいです。よろしく申し上げます。

<高橋商工観光部長>

坂上会長、どうもありがとうございました。

続きまして、本日は近藤副市長にご出席をいただいておりますのでご挨拶をいただきたいと思っております。

<近藤副市長>

改めまして、皆さんこんにちは。ご紹介いただきました京丹後市役所の近藤でございます。

本日は、令和7年度第2回目の京丹後市観光立市推進会議を開催いたしましたところ、多くの皆さんにお忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、日頃から坂上会長様、田中副会長様をはじめ、委員の皆様には、京丹後市の観光振興はもちろんのことですが、地域の幅広い振興や地域経済の活性化など、様々ご尽力を賜っておりますことをこの場をお借りいたしまして感謝申し上げます。

さて、第1回の本会議でもご報告をさせていただきました浅茂川温泉静の里のあり方について、この推進会議でも議論を重ねていただき、ご提案をいただきました。また、健康長寿に繋がる観光拠点としての可能性についても、ご指摘をいただいたところでございます。

これを受けまして、本市におきましては改めて、検討を深化をさせるために、今年度「京丹後市公営プールのあり方検討会議」を立ち上げ、現地調査や様々な議論を行っていただきまして、昨年12月に提言を取りまとめていただきました。今後は、この観光立市推進会議からいただきました提言と、公営プールのあり方検討会議からいただいた提言、双方に真摯に向き合いながら、次なる方向性をしっかりと検討して参りたいと考えているところでございます。

その前提といたしまして、現在市議会におきまして審議中ではございますけれども、来年度の当初予算に、網野温泉プールの耐震診断と、耐震補強を行った場合の費用算定に必要な

経費を計上させていただいているところでございまして、これらの結果を踏まえて、温泉等を含む施設全体の活用の方向性についても、幅広く検討して参りたいと思っているところでございます。

さて、令和7年度も残すところあとわずかとなり、この1年振り返りますとやはり、最大のトピックは、大阪関西万博の開催であったのではなかろうかというふうに思っております。

本市では健康・美・長寿をテーマに、大阪観光局や、観光公社などと連携をいたしまして、ヘルスツーリズムの取り組みを展開いたしますとともに、6月には世界で初めてとなる、第1回世界長寿サミットを開催いただきました。サミットでは食文化と健康長寿の関連性や、老化に関する最新の研究発表が行われるなど、本市が長寿のまちであることを世界に発信する機会にも繋がったというふうに考えてございます。

こうした取り組みの成果も生かしながら、来年度におきましては、のちほどご説明もあるかと思いますが、美食都市のまちづくりといった取り組みをさらに大きく進めたい、前進をさせたい、このように思っているところでございます。

申し上げるまでもなく本市におきましては多彩な食資源や食材があり、それが健康長寿とも深く関わる中で、地域固有の食文化も育まれてきたことはご承知の通りでございます。食から広がる分野は非常に裾野が広く、地域づくりそのものや、交流人口・関係人口の増加にも繋がる大きな可能性を秘めているものだというふうに思っております。

私自身も前職でありました京都府庁におきまして観光に携わっておりましたが、「食の京都」という取り組みの立ち上げにも携わらせていただきました。こうした取り組みとも連携をしつつ、盛り上げていけたらというふうに思っております。

本市には食に加えて、海・森・里山といった自然や、数多くの伝統文化、さらには、先ほど申し上げました長寿のまちという風土と、そこに暮らす人々の知恵など数多くの魅力があり、これらを観光資源としてもさらに磨き上げることで、1年中来ていただいても楽しめる京丹後を実現し、本市の課題でもある二季型の観光からの脱却といったことにも繋げて参りたいと思っているところでございます。

委員の皆様には引き続きのお力添えを賜りますよう、よろしく願いいたします。

結びになりますけれども、本日もご出席の皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念をいたしまして、冒頭にあってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

<高橋商工観光部長>

近藤副市長どうもありがとうございました。

副市長は他の公務が入っておりますので、ここで退席をさせていただきます。どうもありがとうございました。

では、次に本日の会議資料の確認をさせていただきたいと思っております。

本日配布をさせていただきましたものは、次第、配席表、委員名簿、資料1から資料5まででございます。配付漏れ等ございませんでしょうか。もしありましたらお申し出をいただけましたらと思います。

では、会議に入りたいと思います。条例第28条の規定に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になり、議事を進めていただきたいと思います。では、坂上会長どうぞよろしくお願いいたします。

<坂上会長>

議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず、会議録の確認者を指名させていただきます。鎌田誠さん、末次一子さん、よろしくお願いいたします。皆さんスムーズな進行にご協力をお願いいたします。

それでは、次第に基づきまして、「2. 議事」に入らせていただきます。第4次京丹後市観光振興計画の進捗について審議を行います。事務局から資料のご説明をお願いいたします。

<木本観光振興課長>

観光振興課の課長をしております木本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは私の方から、第4次京丹後市観光振興計画の進捗についてご説明をいたします。まず、資料1ですけれどもこれは令和6年観光入り込み客数等の状況ということで、観光振興計画の方に掲げている目標数値に対する年次の実績をまとめたものになります。

また、資料2につきましては、令和6年の実績数値をこのコロナ禍前と比較検証したものでございます。資料1を中心に両方の資料を使いながらご説明をいたします。

第4次観光振興計画ですけれども、令和5年度から計画期間がスタートしまして、今年度は3年目ということでございます。KPIの数値につきましては、京都府等が公表するデータを採用しているところで、直近である令和6年の実績についてのご報告となります。

指標1ですが、令和6年の年間観光入込客数でございます。令和5年の5月から増加傾向にありまして、観光入込客数は、185万人ということで、令和5年の181万人と比較して4万人の増加ということとなりました。資料2にも記載しておりますが、コロナ禍前の令和元年の211万人と比較しまして、87.7%まで戻ってきているという状況でございます。

次の指標2、令和6年の年間宿泊客数でございます。令和6年は、31万人ということで令和5年の34万人と比較して3万人の減少ということとなりました。令和5年と6年、減少傾向にあるという中で、資料2にも記載しておりますが、令和元年が36万人でございましたので、比較しますと84.7%という状況となっております。

次に指標3、年間の外国人宿泊客数でございます。令和6年は目標数値1万人を大きく上回り、1万1,155人となっております。これは旅行サービス事業者の協力による市内宿泊施設への送客が全体の2割程度占めているということが大きく、こうした取り組みが増加を押し上げたものと評価しているところでございます。今後もこうした民間事業者の取り組み

みが一層活発になるよう連携を強化して、さらなる増加を目指して参りたいと考えているところでございます。

次に指標 4、年間観光消費額でございます。令和 6 年は 94 億円ということで、令和 5 年の 89 億円と比較しまして 5 億円の増加となりました。令和 5 年、6 年と増加傾向にあり、これは資料 2 にも記載しておりますが、令和元年の 71 億円と比較しまして 130.8%と大幅な伸びとなっております。年間観光消費額の内訳としましては、宿泊消費額が 76 億 9,700 万円で令和元年比 153.9%と大きく伸びた一方で、日帰り消費額が 16 億 8,200 万円、令和元年比 77.6%の水準にとどまっているという状況にあります。

次に指標 5、再来訪意向率でございます。こちらは何度でも訪れたい観光地を目指し、リピーターを増やそうということでございますが、令和 6 年度の再来訪意向率は 80.0%ということでございました。令和 5 年度の 81.4%と比較しまして、約 1 ポイント減という状況となっております。

指標 6 でございます。宿泊者数の平準化率ということであります。一番大きな京丹後の観光の課題が二季型観光ということで、夏と冬に特化しており、なるべくこれを通年で来ていただける観光地にしたいということで、この計画の目標値としておりますが、令和 6 年度の状況は、目標値 50%に対しまして、46.1%と約 7 ポイントの減となっております。詳細は資料 2 の宿泊者数、平準化率に記載しておりますのでご確認ください。

令和 6 年の観光入込客等の状況のまとめとして、観光入込客数と観光消費額は、着実に増加しているという状況でございますが、物価高騰等による日本人宿泊客数の減少が影響しており、その結果、入り込み客数の伸びは鈍化しているという傾向が見られます。また、再来訪意向率につきましては、主として物価高騰等に伴う旅行コストの増加が影響し、宿泊者数平準化率も特に閑散期である 6 月の宿泊客の低迷が影響し、それぞれ低下したと受けとめているところでございます。

最後に資料 2 の下段、R7 年度アクションプロジェクト進捗管理<総括>でございます。関連資料としまして、資料 3 のアクションプロジェクトの実施調書というものを配布しておりますが、これは第 4 次観光振興計画に基づいて掲げた 57 項目のアクションプロジェクトについて、庁内の関係課、観光公社や地元観光協会など関係団体様も含めた取り組み状況をまとめたものでございます。

令和 7 年度は、大阪関西万博を契機に、「第 1 回世界長寿サミット」の開催などもあり、観光公社を中心に「長寿」「健康」をキーワードとしたヘルスツーリズム関連のプロジェクトが多く実施されたところでございます。また、網野銚子山古墳の整備により、周辺の古墳や遺跡も含めた文化観光の取り組みなど、地域資源を生かした新たな広がりが見られました。個々のプロジェクトにつきましては、社会情勢の変化も踏まえながら、実効性のある取り組みを検討し、計画の目標達成に向けて着実に推進していく必要があると考えております。私からの説明は以上でございます。

<坂上会長>

ありがとうございました。

引き続き資料 3 につきましては、京丹後市観光公社の取り組みが多く掲載をされていますので、中山事務局長から補足説明をお願いできますでしょうか。

<中山事務局長>

失礼いたします。京丹後市観光公社の中山と申します。

資料 3 につきましてご説明をさせていただきます。

まず、基本方針 1、基本戦略の①の 2 つ目に、旬のフルーツに特化した PR 展開事業ということで、令和 5 年度にスポット CM でフルーツのまちの PR をさせていただいて、その後、CM 自体は流していないんですけども、いろんなプロモーションで、食のふるさとづくりを PR をしております。

続きまして 3 つ目の、「フルーツ供給体制の充実」というところで、フルーツリゾート促進事業が記載されていますが、中身につきましては、フルーツを購入する際に、1,000 円分のクーポンをプレゼントするような事業を行いました。

続きまして、基本戦略②、「活イカ、丹後とり貝やカキといった旬の魚介類の活用」ということで、活イカブランド化プロモーションを行っております。事業内容につきましては、リクルートじゃらんによる広告宣伝を行ったり、割引クーポンを発行したりしております。

続きまして 5 つ目の「お宿の畑収穫体験や農家とのコラボ」ということで、オーガニック野菜の収穫体験など、体型メニュー増やして提供しております。こちらはヘルスツーリズムの体験プログラムとして斡旋をしております、多くのお客様に体験をしていただいております。

続きまして 6 つ目の「浜買い体験など新鮮な魚介類の販売」ということで、活イカブランド化プロモーションとして、夕日ヶ浦エリア限定で、瞬間凍結されたプロトンイカを「京丹後イカ漁火」という名称で、広く情報発信しております、京阪神のお客様がかなり多くいらっしゃっております。

続きまして 7 つ目の「日本酒の積極的な活用・発信」ということで、「日本酒の女子旅 酒造めぐりと出会い旅」を掲載しまして、令和 5 年、6 年で実施しております。

続きまして、「昼食プランの提供販売」ということで、日帰り昼食プランに特化したページを、京丹後市観光公社で WEB 発信しております、日帰り昼食プランのニーズが、近年すごくありまして、観光公社の方からの斡旋についてもかなり伸びている状況です。

続きまして、「海の京都旬の食材フェア」につきましては、京都府が実施するフェアの参加店舗の拡大につきまして観光公社でも協力をさせてもらっており、「京丹後ナビ」というホームページで PR を大々的に行っております。

続きまして、「広告宣伝事業」です。こちらにつきましても、リクルートじゃらんや京丹後ナビで PR を行っております。

続きまして、「観光 PR 商品企画事業」としまして、お茶レターというノベルティを制作しております。イベントや PR ブースなどで好評をいただいております。京丹後の PR に活用しております。

続きまして、「幹旋等事業」ですけれども、シーカヤックですとか SUP ですとか、海遊びのコンテンツが、近年すごく人気がありまして、観光公社で代理販売をしております。年間、倍々状態で、すごく人気が増えておりまして、毎月 2、30 件、夏の間は予約が入っております。

続きまして、「春・秋・冬の魅力的な映像発信」ということで、観光ポスターを四季で作っております。京丹後の魅力を発信しております。今年度も作成しております。昨年度も丹後 6 町の魅力を発信する観光ポスターを制作しました。

続きまして、「里山・里海資源による観光商品づくり」ですけれども、グリーンベルトの観光価値創造事業ということで、令和 5 年度まで、山、海、川などを活用した観光コンテンツの開発をしております。PR をしております。

続きまして、「里山文化案内人等ガイドの養成」ということで、令和 6 年度で終了しているんですけれども、里山を案内できるガイドの養成を行って来ました。

続きまして、「ジオトレッキングや長寿食を生かしたヘルスツーリズムの推進」ということで、観光公社で、「Kyoto Health Resort 京丹後」という商標登録をとりまして、大々的に PR しております。令和 7 年度につきましては、健康経営 EXPO というイベントに出展しましたし、地域事業者協議会を設立しまして、さらにヘルスリゾート京丹後を PR していく予定としております。

続きまして、「スポーツイベント開催による宿泊促進」ということで、市主催で各種スポーツイベントがたくさん行われてるんですけれども、観光公社で、宿泊幹旋とか弁当の手配を毎年行っております。

続きまして、「MICE、ゼミ受入れやワーケーション等ビジネスユース推進」ということで、令和 6 年度まで、丹後リビングラボ様とビジネスモデルの創造事業などを一緒に行っております。ANA 様から派遣された職員がいた時には、いろんな企業の視察ですとか、企画、受け入れを実施して来ました。あと各種大学とも連携をしております。京丹後でのフィールドワークを支援する形で関わっております。

続きまして、「国内外観光プロモーションマーケティング事業」です。網野銚子山古墳の整備が完了しまして、古墳ツアーを実施しております。与謝野町も含めた 3 大古墳めぐりのモニターツアーを実施しております。古墳が趣味のお客様がたくさんいらっしゃっております。

続きまして、観光庁の公募で、インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツの造成を行って来ました。さらに地域の祭りや催事について、日々、イベント情報として SNS、インスタグラム、フェイスブックで PR を行っております。

基本方針 4 のところなんですけれども、「京丹後×ANA」ということで、これは令和 5 年度に

終わっているんですけども、ANA グループとの連携で、飛行機を活用した誘客、魅力発信を行ってきました。

続きまして、「観光コンテンツ・キャンペーン企画開発」ということで、ジオパークを活用したジオトレイルなど、これまで 1,000 人以上のお客様に参加いただいたツアーを実施してきております。

その下、「ジオパークの学習をメインテーマとした教育旅行」についても、臨海学校の受け入れを数多くしてきております。

続きまして、「きもの祭り」は、令和 5 年度限定で実施したんですけども、着物をテーマとして外国人向けのモニターツアーをする中で、外国人に着物の魅力を PR してきました。

次に「新型コロナウイルスの感染症対策」で、アフターコロナに向けたインバウンドの再開への対応推進ということで、現在では、空港から最も近い京都・京丹後として、JAL 様と PR を行っております。

続きまして、「海水浴場情報配信システム運用」ということで、海水浴の開設期間中に観光公社のホームページ上で、海水浴場の駐車場の混雑情報を発信しております。システムによる利便性の向上を図っておりまして、問い合わせも多数受けております。

基本方針 6 をご覧ください。こちらにつきましては観光公社の取り組みを数多く掲載しておりまして、デジタルマーケティングの SNS の発信ですとか、広告なども多数行っておりまして、さらにインバウンド向けに「Visit Kyotango」で外国人観光客への発信も行っております。

続きまして、「面的 DX 化事業」ということで、Google 広告のマーケティング事業ですとか、Google ビジネスプロフィールの更新の支援を行っておりまして、宿泊事業者様に最新の情報の発信をしていただいております。

続きまして、「ANA、JAL、Peach による京丹後市内観光地 PR」なんですけども、JAL 様と認知度向上、誘客連携事業を令和 7 年度も実施してきました。

続きまして、観光プロモーションの「積極的なロケ支援」ということで、近年ロケですとかマスコミでの京丹後の露出が増加しております。これは、様々なマスコミに、京丹後市の情報を提供しまして、取り上げていただけるように取り組んでおります。

続きまして、「Kyoto Health Resort 京丹後推進事業」としまして、観光庁の補助金を活用し、ヘルスツーリズムの販売プロモーションを令和 7 年度は主に実施してきました。

「国内外商談会・セールスコール事業」ということで、阪急交通社ですとか、各旅行会社に商談に行っておりまして、大きな商談会にも参加することで、ツアーなどを組んでいただいております。

続きまして、「後援事業」としまして、令和 7 年度は 19 件ほどの後援を行っております。

続きまして、「里山文化案内人養成事業」ということで、令和 6 年度まで、コーディネーター兼ガイドなども養成をしております。

続きまして、「Kyoto Health Resort 京丹後推進事業」ということで、ヘルスツーリズム

の地域事業者協議会を昨年12月に設立しまして、さらなる取り組みを行っていくつもりです。

続きまして、「国内外観光プロモーションマーケティング事業」の中で、京都府の文化チャレンジ事業にも取り組みました。

その下の「木津川市友好都市プロジェクト事業」ですけれども、300人泊、400人泊の誘客を木津川市と行っておりまして、京丹後に泊まっていた木津川市民の方に2,000円の補助を出して誘客を図っております。これは年間300人泊、400人泊と数に制限があるんですけれども、毎年いっぱい状況です。

続きまして、「インナープロモーション事業」ということで、会員専用のLINEを活用し、常に情報発信を行っております。

その下の「国内外観光プロモーションマーケティング事業」ですけれども、木津川のキャンペーンですとか期間限定のキャンペーンで、京丹後ナビから予約いただいたお客様にガソリンチケットを観光公社で発行し、提供しております。

続きまして、「観光庁 地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」ということで、こちらにつきましては、夕日ヶ浦をメインにやっておりますが、「夕日がつなぐ京丹後推進協議会」の地域一体となった取り組みを継続しております。主に面的DX化事業に取り組んでいるところです。その下についても同様でございます。

次に「ふるさと推進事業」ですけれども、京丹後市のふるさと納税制度を活用して、京丹後宿泊クーポンを発行しております。さらにお食事クーポンも発行しておりまして、昨年でございますと5,300万円ほどの宿泊クーポンを発行して、市内の宿泊施設へ誘客を図っております。

観光公社の主な取り組みにつきましては、以上になります。

<坂上会長>

ありがとうございました。ただいまの説明に対してご意見、ご質問等ございますでしょうか。

<谷口委員>

青少年スポーツ協会の谷口といいます。

何点かちょっと確認したいです。今、総括的なところを聞かせていただいたと思うんですけども、前回も前々回も少し、スポーツの観点からお話しさせていただいたところもあったりして、聞きたいところで、令和6年度、令和7年度どう整理されるのかわからないんですけども、来丹された方がどのような交通手段で来られているのかという情報が、もし、これとは別にあるのであれば教えていただきたいなと思います。

と言いますのは、スポーツ協会の関係で、やっぱりアクセスがうまくいかないということで、個人でずっと自家用車で来られる方ですとか、中には、チームでバスを借りてこちらに

入ってこられるということもあるんですけども、一定の環境を整えるというところで、そういった見方も必要ではないかなと。

丹後海陸さんも、その他の観光の方々もこちらに入っていただいていますので、そんなところの情報があれば、教えていただきたいです。

それからもう1点は、先ほどの里山のところの部分で整理されている中に、丹後七姫ってありますよね。今この観光拠点の現状はどうなっているんだろうなと思って。

今もその絵柄はPRされていますし、その拠点整備はどうなってるのかっていうところが、教えていただけたらと思います。

<坂上会長>

ありがとうございます。事務局の方からいかがでしょうか。まず、交通手段について1つ目のご質問がありました。

<中山事務局長>

1つ目のご質問で、スポーツ、イベントの交通手段ということで、基本的にスポーツイベントは教育委員会の生涯学習課が行っている中で、観光公社では宿泊斡旋などをさせてもらっております。ウルトラマラソンですとかは、ほとんど自家用車で来られておりまして、市の動員でバスの添乗員を毎年させてもらってるんですけども、7割、8割が自家用車で来られてるような感じだと思われまして。統計とかは、また教育委員会と連携して、どういった交通手段で来られているのかというようなアンケートが取れたらいいかなと思ってんですけども、現在は肌感覚でしかわかっておりません。

<木本観光振興課長>

丹後七姫の拠点の関係でございます。1つはハード面といいますか、網野は静御前ということで、その舞台（静の杜）を整備させてもらっているんですけども、いわゆる老朽化といいますか、古くなっておりまして、今は立ち入りができないようなぐらい傷んでいるといった状況の中で、訪れた方からは、残念だというようなお声もいただいているところでございます。そこは1つ課題になっているのかなと思っております。

あと丹後七姫、せっかくこういった歴史上のものがありますので、1つは先ほどもありましたが、観光公社の方で「丹後七姫茶」を作った経過もございます。これにより来られた方々にPRをしていこうという取り組みでしたり、最近ではジオパークの絡みもございまして、高校生がアプリを作って、その場所に訪れた方々がポイントをためることで何かをもらえるというような動きも出てきているという状況です。

民間の方とか高校生とかも、観光の1つのコンテンツとして認めてもらって意識もしていただいている中で、そういった取り組みが徐々に広がって、定着しつつあると認識しておりますし、市としてもこれから整備とか、必要なものはやっていかなくてはならないというふ

うには思っております。

<坂上会長>

ありがとうございます。今の説明に対していかがですか。

<谷口委員>

はい、ありがとうございます。交通の関係は、スポーツだからという話ではなくて、もしかすると、観光目的に来られている方々も、どういう移動手段で来られているのかというのは、すごく大事なことで、アクセスの仕方というのも、以前もいろいろと議論があったと思いますので、そういった情報もここに挙げて、運行されるバスだとか、列車だとか、もしかすると飛行機も、いろいろとあると思うので、そういったのも一緒に情報として組み入れられて、どうしたらいいのかということ、観光協会が道路云々とか言えないかもわかりませんが、市としての取りまとめの中でしていかれた方がいいんじゃないかなと思って聞かせていただきました。

もちろんスポーツの関係も、我々、サッカーや、陸上や、バスケや、いろんなところが活動していますので、そういったことを見ていただいたらということで、お願いしておきたいと思います。

それからもう1点は、丹後七姫の話をさせていただいたんですけども、観光に来られる目的がいろいろとあると思うんですね。よく市長なんかは、丹後王国とか歴史のことをよく語られると。そうした時に、やはりそれはPRとしてされてる中で、食べることだとか、そういうことだけじゃなくて、拠点の整備というのは、やっぱり、一定のところはきちっと整備していかなきゃいけないんじゃないかなと思って、現況を十分知らずに、お話をさせていただきましたけども、そういったところも大事なことなんじゃないかなと思って、取りまとめの中に、また次年度に繋がる資料だと思いましたので、聞かせていただきました。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。

今、バスの話が出ましたので、丹後海陸交通さんいかがでしょうか。

<下戸委員>

失礼します。丹後海陸交通の下戸です。

今、京都の方から5便、あと大阪の方から5便ということで、相互運行の部分も含めまして、京都5往復、大阪3往復ということで運行を行っております。その中にどれぐらい観光客の方がいらっしゃるのかというと、ちょっと実情把握しきれない部分もあるんですけども、確実に地元の方のご利用だけでなく、観光でお越しいただいているというふうに思っております。

京都の方の5便、特に京都から、9時、また12時台の発については、非常に観光客の方が多いということで、乗務員の方からも聞いておりますし、その便をご利用いただいて、今後観光に生かしていただければと思っております。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。高速バスのネットワークが、観光にとって、コストを考えると、非常に安価であったり、時間が短縮されたりというような利便性が高まっているかと思っておりますので、この辺のPRも併せて、うまく連携していけばいいかなと思っておりますが、特に補足ございませんでしょうか。これからのこととかも含めて。

<下戸委員>

そうですね、せっかくこうして会議にも来させていただいておりますので、観光客の方がこういった時間の方が使いやすいなというようなお時間があれば、検討もさせていただきますので、またご意見をいただきたいと思っております。

<坂上会長>

ありがとうございます。では、亀谷さんお願いいたします。

<亀谷委員>

海の京都DMOの亀谷です。いつもお世話になっております。
観光客のデータなんですけど、我々の方でDMO設立以来、インバウンドに関しては、有人駅で乗降調査してますので、そちらのデータはご提供とご開示できると思っておりますので、そこは事務局さんにお渡しさせていただけたらと思っております。あわせて、令和6年度に、京都駅から直通的京丹後方面の高速バスの実証を丹海さんにご協力いただいてやらせていただいているんですが、その時に観光目的のアンケートもあったと思っておりますので、あわせて事務局さんに情報提供させていただきます。ただ、アンケートの回答なので、乗車数に比べるとかなり低い結果にはなっておりますけど、またそちらもご覧いただきながら、いろいろご意見いただけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<坂上会長>

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

<谷口委員>

度々すみません。この場でどうするという事ではないんですけども、関東の方からお越しになる方の視点で、隣の豊岡の方が話をされたんですけども、我々、東京からここに日帰りしたいとなった時に、一番簡単なのは京都駅で降りるということですが、いくら早く走

っても、こちらにいられる時間は2時間3時間くらいしかない、飛行機を使ったとしても、今度は1便50人弱しか乗れないということだとか、午前と午後しかないということがあって、その中でおっしゃられたのは、鳥取コナン空港を使ったアクセスも、県をまたぎますが、考えてみられたらどうですかと。なるほどなと思ひまして、京丹後市は高速道路整備が不十分なんですけども、豊岡、佐津まで行ったら鳥取まで無料で入れるような道路事情になっていまして、2時間弱で行けるということになるんです。そうすると、そういうアクセスもあるのかなと思って、アドバイスの的に聞いていました。

そういうところを考えると、スポーツの関係でも関東の方から来られた方に、そういう方法もありますよということをPRすることができるのかなと思って聞いてましたので、披露させていただきました。

<坂上会長>

ありがとうございます。

<中山事務局長>

今、ご提案いただきました鳥取コナン空港なんですけども、先週、観光公社でも、専務理事含め、東京での観光PRに行くのに使っておりまして、大体、京丹後から鳥取コナン空港まで、2時間もかからない1時間ちょっとで行けて、鳥取コナン空港から東京までが1時間半で行くんですね。結局、鉄道を使って京都駅行くまで2時間半かかって、そこからさらに2時間半で、5時間かかることを思うと、鳥取コナン空港からは非常に便利で早かったということを知っておりますので、観光公社の方でまたPRしていきたいなと思ひます。

<坂上会長>

ありがとうございます。今、エアの話が出たので、ZOOMでご参加の佐渡谷委員、いかがでしょうか。

<佐渡谷委員>

日本航空京都支店の佐渡谷でございます。先日、鳥取空港を利用されたということをお伺いしたところなんですけども、弊社便ですと、伊丹空港を使っただいて伊丹-但馬線という飛行機が運航しております。東京から繋がるには朝1便、夕方1便という、便数は少ないのですが、乗り換えはあるものの、先日ファミトリップでも使わせていただいたのですが、豊岡の空港から久美浜のあたりだと1時間かからずにとどり着くことができましたので、ぜひこのあたりも引き続き連携させていただいて、利用促進と京丹後のより良い集客にご協力していければと考えております。

<坂上会長>

ありがとうございます。参加された方の意見などがありますでしょうか。

<佐渡谷委員>

スムーズに運航できれば、待ち時間も最小で、東京から2時間半はかかってしまうと思うんですけども、京都駅から車で2時間ちょっとというところで、メリットは人それぞれだと思います。スムーズに乗ってこれれば、非常に豊岡という空港は利便性はあると思います。ただ、県をまたいでしまいますので、豊岡の空港との連携が引き続き必要な状況ではあります。

<坂上会長>

ありがとうございました。

<加藤委員>

商工会観光業部会から来ております加藤といいます。夕日ヶ浦温泉地区で旅館をしまして、さっきのバスの関係で。

この冬の統計で、2社、走っておりまして丹後町から琴引浜、浜詰、湊地区で大体2,000人弱のお客様がバスの利用をしていたと思います。2社ありまして、阪神観光さんとリモンさん。リモンさんは路線で走らせてまして、今年の大雪でたぶん相当な打撃をくらっておられると思います。路線化になると必ず走らないといけない、2人でも走るとか、そういうことがあって大変だったんじゃないかなと思います。

それと、駅を見ていましたら、今年は京都発の4両編成のタンゴエクスプローラー、3時11分ですか。あれがすごくて、もう駅にマイクロが並ばないほど、大行列になりまして、マイクロが10台以上、常に夕日ヶ浦木津温泉の駅前にいるような状態でした。あの時間のあの汽車がすごい多かったです。汽車の統計はちょっと僕わからないですけど、大変多くのお客様がおられました。

<坂上会長>

ありがとうございます。どうぞ。

<亀谷委員>

15時台の夕日ヶ浦木津温泉駅の特急車両なんですけども、去年の3月のダイヤ改正から久美浜行を夕日ヶ浦木津温泉行きに変えていただいて、京都市内でも、駅のプラットフォームとかでもごすごく案内されているので、そういったことがやっと今年の冬に効果が出てきたのかなというふうに思っておりますので、良いことをおっしゃっていただいてありがとうございました。

<坂上会長>

ありがとうございます。

<大亀委員>

食のことで質問なんですけど、たんちよすとか美食の方々がされいてた取り組みがあったと思うんですけど、去年とか今年とかはされなかったと思うんですけど、理由があったんでしょうか。たぶん美食都市アワードを取られてからはプロモーションの方をされていると思うんですけど、意見があったりしたのでしょうか。

<坂上会長>

いかがでしょうか。

<木本観光振興課長>

美食研究会が取り組まれている事業でして、平成28年から美食といいますか、食の取り組みは進めておまして、スペインのサンセバスチャンに行っていたいで、それを基に研鑽を積んでいただいている中で、そういった取り組みを披露していただいたというような経過がございます。

そういった中で、市もそこを支援するという形で、いわゆる補助金という形で支援をしながら推進をしてきたところがございますが、一旦、美食都市アワード2024をいただいたことを機に、また新たな取り組みを考えていくということで、今一旦、休止といいますか、その取り組みは、補助金も交付していないという状況になっておりますが、先日、京都府さんの方の事業でも同じようなことをしていただいたようですので、府と市と連携をしながら、またそういった取り組みをどんどん進めていくということと、冒頭、近藤副市長の方からありましたように、食のまちづくりを、来年度、強化し、進めていくということもございますので、その中での新たな取り組みは考えていきたいというふうに思っております。

<田矢委員>

私どもにいらっしゃる団体のお客様についてなんですけど、一番多いのが首都圏からなんですね、関西よりも。東京からとか東京近郊の県からいらっしゃるんですけども、どうやって来るかという、1つは新幹線で、米原経由で、米原からバスで上がってこられるというのと、それから飛行機も結構多くて、茨城空港とかその辺から乗って、神戸だったり中部国際から上がってくる。向かう方面は完全に日本海側なんですけれども、中部国際空港から来られるお客様も結構いらっしゃるというような状況です。

もう1つは、北陸経由です。関東から北回りで福井とかその辺からバスに乗っていらっしゃるという流れが多いかなというふうに思っていますので、逆に関西、例えば大阪からですと、よく商談のときに言われるのは、天橋立まで行くけど、そこから先に行こうと思うとバス代

が上がってしまって、なかなか行けないんだということをよく言われます。なので2泊3日ぐらいで、泊まりでバスで回られるの方が、来ていただきやすいのかなと最近感じているところです。

それと、先ほど古墳のお話が出ましたが、公社さんと一緒に連携させていただいて、古墳弁当というのを作りまして、昨年、団体のお客様で20本以上のバスで、古墳の見学と、古墳弁当のお食事ということで、来ていただいています。なかなか数を数えるというのは難しいんでしょうけれども、私どもにいらっしゃるお客様はどれぐらいかわかるんですが、この1年間で大体どれぐらいのお客様が、お見えになったのかとか、今後のご予定とかあれば、お聞きしたいと思います。

<中山事務局長>

古墳のツアーなんですけども、いろんな旅行会社の方がされているのと、個人でいらっしゃるお客さんが結構いらっしゃって、観光公社でも古墳のところで、カウントはしていないので、宿泊事業者様ですとか丹後王国様からの情報をいただいて、今後どういった取り組みができるのかというところは検討したいと思います。

<山口委員>

宇川加工場の山口です。長寿弁当ということで観光公社さんと一緒になって、いろいろさせていただいています。

それともう1点は毎回言ってることですが、経ヶ岬の灯台保存会、今日、午前中に総会がありました。そして昨日、孫が滋賀の方から来てましたので、伊根の方に参りました。やはり、ぶらぶらと歩きながら、外国の方が大勢いらっしゃいました。孫が、袖志から伊根は近いねと。やはりあのラインは本当に放っておく手立てはない。1つ言いたいのは、灯台保存会は住民たちが中心で立ち上がって、10年になります。重要文化財になった灯台を何とか本当に盛り上げてもらって、伊根のお客様をこちらに誘致するような魅力的なものに、やはり行政が力を貸していただかないと、個人・団体含めて庶民の団体では何ともならないので、なぜそこがスムーズにいかないのかなってというのが、今日の総会の中でも話題でした。

それと、もう1つ私は岐阜出身なので、中部空港から丹後に来るというのはちょっと驚きでしたけど、たぶん、その間にいろんなところを観光しながら、橋立等にいらっしゃるのかなと思いました。

私は、関西圏よりも関東の方からお客様が多いのであれば、前から思ってることは、東京から一番遠い町、それを売りにするような、逆のパターンの売り方もかえって外国の方含めて、興味を持たれて、ゆったりと、そしてのんびりとできる感じの京丹後ということで、また違った売りができるんじゃないかなと。いかに早く、関東から来るのではなくて、本当に遠いじゃないですか。だからかえってそういうことを売りにしながら、お客様を誘致できるようなことも1つの形ではないかなということ思いました。

それともう1点、これいろいろ資料を見せていただきましたが、やっぱり本当に観光公社の方がすごく努力をしてくださって観光振興課含めて、ただ本当に問題が山積みにあるので、やはり何年度はこれを中心にやるとか、そういうふうに凝縮された進み方をしないと、今後難しいと思うので、今年度は交通も含めて、灯台を充実させる方向でやっていこうとか、夕日ヶ浦の方にお客様をどう誘致するんだというようなことを、小分けにしながらやられた方がいいのではないかなと思いました。本当にこのご苦勞はよく私もわかっていますので、今年度、来年度含めて少しでもそんな戦略を考えていただけたらいいかなと思いました。

<坂上会長>

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

テーマが非常に幅広いので、意見がなかなか言いにくいかもしれないと思います。今まで、皆さんのご意見をもとに作ってきている計画ですので、今日のご意見をもとに少し事務局の方で、ご判断をいただきたいなというふうに思いますが、最後に、ぜひこれだけはという方はご意見、お伺いしたいと思いますけど、いかがでしょうか。

<加藤委員>

京丹後がジオパークからはずれそうという話を聞いたのですが、本当の話ですか？

<木本観光振興課長>

私は課長として、山陰海岸ジオパーク事務局の方にも参加しておりますので、全くそのような話はなくてですね、むしろ、組織を強化しようという動きが今あります。そういうことで、ご安心をいただければと思います。

<坂上会長>

ありがとうございます。大変良いご意見であったと感じております。

では、時間の予定もありますので議事の第4次京丹後市観光振興計画の進捗についてはこの辺でとどめさせていただきたいと思います。大体、おっしゃっていただきたい方はご発言いただいたんではないかなというふうに感じております。修正が必要な箇所は事務局の方で対応を行うということで進めさせていただきたいと思いますが、皆さんのご意見の総意としては、京丹後市全体を一言で言うところこんなストーリーで戦略を組んでいるんだというのが、ちょっとなんかわかりにくい。丹後七姫でいくのか、ジオパークでいくのか、食でいくのか、なんかいっぱいありすぎて、キラークンセプトというか、何か強いメッセージみたいなのが必要ではないだろうかというご意見が多かったのかなという印象を持ちました。

それから、首都圏ももう少し力を入れたほうが実態的にはいいだろうということで、エアを含めていろんなコースを想定しながらやっておられるとは思いますが、今一度チェックをいただいたらどうかというご意見が多かったのではないかなというふうに感じておりま

す。前半、交通手段のご意見が非常に多かったので、そういうことになろうかなと思います。

では、事務局の方で、その辺含めてご対応いただくということで、皆さんこの進捗について、ご異議はございませんでしょうか。

ではご意見ご異議なしということでまとめさせていただきたいと思います。第4次京丹後市観光振興計画の進捗については、ご承認いただいたということで次のテーマに行きたいと思います。

次に、前回の第1回の会議で意見交換をさせていただきました観光財源のあり方について、皆様からご意見をいただきました。振り返って事務局の方からご説明をお願いいたします。

<木本観光振興課長>

資料につきましては、資料4になります。

前回、1月27日開催の第1回観光立市推進会議で、皆様には、京丹後市における観光財源の状況と課題、あわせて全国の宿泊税等の導入事例についてご紹介をさせていただき、観光財源のあり方について意見交換をいただいたところでございます。

この資料4につきましては、会議でいただきましたご意見の要旨をカテゴリーごとにまとめさせていただいたものでございます。振り返りも兼ねてご確認をいただけたらということでございます。

(資料4を読み上げ)

以上でございます。

<坂上会長>

ありがとうございます。ただいまの説明に対してご意見、ご質問ございますでしょうか。重ねて追加のご意見でも結構でございますので、よろしく願いいたします。

<加藤委員>

夕日ヶ浦で事業者さんに何軒か聞いたんですけど、そもそも他地域で宿泊税をし出したのは、インバウンドによる町の荒廃とか、そういう何か整備とかに使われる目的で出てきたんじゃないのかという話もされる方もおられましたし、僕の地域でもそうなんですけど、区費とかあるんですけど、旅館関係さんは、たぶん全期前納でお願いしますという区からの要請で、ほぼほぼ全期前納されとると思うんです。それで割引はたったの5,000円です。ほぼほぼそれで地域が回ってると思うんですけど。

それで、京丹後市に観光業者が納める税収は全体のどのぐらいになっているのかとか、そちらの方で、観光財源にもっと使えないのかなとか思います。

<坂上会長>

ありがとうございます。大変わかりにくい状況であろうかなと思いますので、次年度それを検討していくということで、おそらくその辺のデータも収集しながら、誰が見ても説明がつく状態まで持っていかないと、税の導入はできないかなと思いますが。

基本的に、世界の標準が、もう観光税ありきなんですよ、ほとんどが。たぶん今、海外のホテルの予約をしたら、16%とか、ホテル代が3万円なのに、税金を1万円ぐらい取っているところもざらにありますので、要するに、それだけ地域の資源を使っているという認識を持ってもらって、観光してもらおうという前提になっているのではないかなというふうに思います。決してインバウンドではなく、宿泊業そのものが、地域の資源を使うから、その地域の資源を守るために納税というか、観光客が納税しなければいけないという、認識がスタンダードになっているのではないかなというふうに、私は理解をしておりますけれども、これから、それらを含めて、どれが正しいのかというのを検討していただいくということになるかなと思います。

たまたま最近、Youtube を見ていたら、「北海道と札幌市が観光税を導入しました。来たらぜひ納めてください」という動画がたくさん出てくるんですね。たぶん情報発信されているのではないかなと思います。おそらく、これから増えてくるのではないかなと思います。

事務局から何かありましたら。

<木本観光振興課長>

会長の方からもございますように、この後、説明する予定ではあったんですけども、こういったことを広く、いろんな方々の意見を聞きながら、またさらに宿泊税、観光財源のあり方を考えていくということで、来年度、そういった予算も予定しているということでございます。またその時には、いろんな貴重な意見をいただけたらと思っております。

<坂上会長>

他ございませんでしょうか。

宿泊税の検討はこのメンバーであるんですか。それとも何か部会のような形で集まっていたのか、まだ決まっていませんでしょうか。

<木本観光振興課長>

資料の5の一番後ろをご覧ください。

話題になりましたので、先に話をさせてもらいたいと思いますが、これが予算の資料でございます。現在、議会の方で審議をいただいている状況ですので、今後変わる可能性もありますが、今、審査をいただいているという中身でございます。

宿泊税の検討委員会を立ち上げようということでありまして、目的に書いてございますように、新たな観光財源のあり方の1つとして宿泊税の導入について検討を行いたいとい

うことで、委員の方は、学識経験者、大学の教授等、宿泊事業者、観光関連事業者等 10 名で、予定をしております。開催につきましては、4 回の会議ということで、概ね秋ぐらいには一定の方向性がまとめられたらなということで考えています。

経費につきましては、39 万 1,000 円ということで、中身は検討会議の経費で、謝金、費用弁償、あとは、アンケートもやっていきたいということで考えておりますので、その郵送代ということで予定をしている状況です。

<坂上会長>

ありがとうございます。ここにご出席の方は、またこの会議等でご報告をいただくということでご理解をいただきたいと思います。

他にございませんでしょうか。ないようでしたら、これで議事を終わりたいと思います。議事進行にご協力ありがとうございました。マイクを事務局にお渡しいたします。

<高橋商工観光部長>

坂上会長、どうもありがとうございました。また、委員の皆様にはたくさん貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

では、「その他」ということで、次第の方にありますけれども、今、少し観光財源のことで来年度の予算のことについてお話をしましたけれども、その他も含めまして、改めて令和 8 年度の観光関連の予算案ということで、少しご紹介をさせていただきたいと思います。

現在、市議会の方で審議中の予算ということで、昨日、委員会は通過をしましたので、来週 21 日が最終日ということで、可決される見通しという状況にはなっております。従って、今からお話をさせていただくことについては、来年度、実行するという形で話が進めそうだという状況にあるということで、お話を聞いていただければというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

<木本観光振興課長>

引き続きまして、私の方から説明をします。資料 5 をご覧ください。

ページ番号が既存資料を抜粋したものでして、いきなり 18 ページというふうになっておりますけれども、この右側の上段です。「美食都市のまちづくりの推進」ということで、2,628 万円の予算計上をしております。

この事業につきましては、平成 28 年に市議会で決議されました「京丹後「食の王国」まちづくり宣言」を踏まえまして、健康長寿を育んできた地域の食文化を守り、継承するとともに、全国初的美食都市アワード受賞による評価を生かした官民連携による持続的なまちづくりと産業振興を推進し、美食と健康長寿の地域ブランド確立を目指すということでございます。

この 4 月には、市長公室に美食のまちづくり推進課という課が新たに設置をされて、この

当該の業務を執行するという事としております。

以下、この資料にも書いてございますように、中身につきましては、まちづくりプランですね、どういったことをするのかという指針になりますプランを策定する、こちらの方も、委員会を立ち上げてやろうということと、美食都市京丹後の発信を強化しようということとで看板でしたり、パンフレットを作成したり、また、専用のウェブサイトのほうも制作していきたいと考えております。

そして、地域活性化起業人の受け入れということで、総務省の方で地域活性化起業人制度ということで、有利な財源を活用できる制度でございますが、こちらを活用しまして、美食都市のまちづくりの事業推進役として牽引していただける方を受け入れさせていただきまして、食に関する専門的な知見を生かしてもらって、進めていきたいということで考えております。

また、一番下に（仮称）ということで「美食都市のまちづくり推進協議会補助金」ということを書いております。官民連携による推進協議会をまず設立しまして、協議会が実施主体になって行く、様々な地域の食文化、健康長寿の町という価値を生かした、産業振興に資する事業とか、地域の食文化を支えてきた市民の暮らし、営みの継承に繋がる事業など、美食、健康長寿の実現に向けた取り組みなどをしていただくものに対する補助金ということでございます。なお、資料の3枚目、ページ番号5になるんですけども、細かく書いてある資料をつけさせていただいておりますので、またご覧おきください。

次に、資料2枚目のページ番号19です。「あしぎぬ温泉管理運営事業」ということで5,995万円です。市では、すべての指定管理施設の協定期間が今年度末で満了するということを受けまして、さらに1年間延長しまして、その間に指定管理施設を中心に、市有施設の今後のあり方を見直すという方針としていっているところであります。

あしぎぬ温泉につきましては、現指定管理者でさらに令和8年度1年間運営をしていただくことを予定しておりましたが、今年度末の協定期間をもって、撤退をするというようなご意向が示されまして、次期指定管理者の選定ができなかったという状況がございます。そのため、令和8年度は市が直営で施設を維持管理させていただき、サービスの継続を図っていきたいと考えておる予算でございます。

その下です。冒頭、副市長の方からもございました「網野温泉プールの耐震検討」の予算額ということで1,650万円を計上しております。今年度、京丹後市公営プールのあり方検討会議を4回開催させていただきまして、昨年12月には京丹後市における公営プールのあり方に関する提言ということで3つの提言をいただいたところでございます。

その中の1つに、網野温泉プールの活用に関する提言ということで、網野温泉プールの活用を検討する場合は安全性の担保が前提であり、旧耐震基準のまま継続利用を行わず、耐震診断の結果に基づく安全性の確保を前提とすることというふうにされておりますので、市としましても、まず令和8年度に耐震診断を実施して、施設の安全性とか、改修範囲、費用等を客観的に確認したいということで、予算を計上しておりますのでございます。

その下ですが、「健康・美・長寿推進協議会」、37万円でございます。昨年大阪関西万博連携事業の一環ということで、大阪観光局と全国11の自治体があるのですが、健康・美・長寿推進協議会というのを組織しまして、健康・美・長寿をテーマにした送客、誘客イベント、またシンポジウム等を実施してきたところでございます。万博のレガシーとして、当該事業を令和8年度も継続的に実施するための予算ということでございます。

次に、資料2枚目の裏面、ページ番号20でございます。京丹後市の観光公社への補助金ということで、国内外の観光プロモーション等の活動に対する支援ということで、まず補助金が7,856万円。次に、総務省の地域活性化起業人制度を活用しまして、観光関連の大手企業の社員2名を受け入れ、公社へ派遣するための経費として2,000万。さらには、インバウンド誘致を促進するための国際交流員、CIRですね、こちらの1名の任用に関する経費ということで419万円を計上しているところであります。

4つ目、地域おこし協力隊の活動ということで356万円ですが、こちらにつきましては、砂浜海岸のにぎわいづくり、ビーチを活用した観光誘客等を担っていただくということで、海の京都の主たる滞在促進地域であります夕日ヶ浦エリアの地元観光協会を受け入れ団体としまして、この3月から地域おこし協力隊1名に着任をいただいているところでございます。その令和8年度分の活動経費ということで計上しているところであります。

次に、「ブルーフラッグ認証取得支援事業補助金」です。これはビーチの国際環境認証でありますブルーフラッグの認証取得を目指す浜詰区に対しまして、認証取得に必要な取り組みにかかる費用373万円を支援するというところでございます。資料の4枚目にも、詳細資料をつけておりますので、またご覧いただけたらと思っております。認証取得の時期は来年の5月を予定しているということでございます。

その下ですが「ユネスコ世界ジオパークの推進」につきましては、939万円をユネスコ世界ジオパークの保護、保全等にかかる事業費ということで計上しておりますし、「日本一の砂浜海岸づくり」ということで、一斉クリーン作戦やワンハンドビーチクリーン事業等の実施経費と海水浴場の開設支援ということで2,160万円を計上しているところでございます。

次に「愛知県誘客連携プロジェクト」ということで、予算額1,500万であります。この事業につきましては、資料3枚目の裏面、ページ番号6の方でご説明させていただきたいと思っておりますのでご覧ください。先ほどもありました中部圏の方からの誘客ということもありますし、歴史的、文化的繋がりを観光資源として活用し、京丹後市を親しみやすく魅力的な旅先として発信し、愛知県民の新たな旅行のきっかけを創出するとともに継続的な、相互交流を拡大するというのと、観光需要を創出し、観光関連事業者を支援するということを目的としております。事業内容につきましては、観光公社が事業主体になっていただきまして、市はそちらに補助金を交付するというところであります。総事業費は2,500万円で、市の補助金が1,500万円ということで、観光公社の方も1,000万円の負担をいただくというようなスキームになっております。

愛知県の在住者向け「京丹後での宿泊・周遊補助」の提供ということで1,000万円分。

時期としては、5月から3月を想定しております。対象者は愛知県の在住者ということで、観光公社の特設サイトから宿泊予約したものを対象としております。内容につきましては、宿泊していただいた方に対して、1組当たり4,000円のプレミアム付与ということで、クーポン3000円分、ガソリンチケット500円分、京丹後デジタルポイント500円分というところでございます。発行規模につきましては5,000組分ということで総額は2,000万円ということでありまして、あわせてプロモーション経費ということで500万円も計上しております。ここに書いてありますように、宿泊チケットだとか、観光パンフレットの郵送料、特設サイトでのPR、SNS、Web広告等によるPR、そういった経費に充てることとしております。

資料2枚目の裏面、ページ番号20です。「観光業等活性化推進事業補助金」です。これは、スポーツ大会等の大会関係者の市内宿泊人数に応じて補助金を交付するという事業で112万円を計上しております。友好都市であります「木津川市との交流事業」ということで80万円を計上しております。これはもう5年目の事業ということになりますが、木津川市民を対象に、本市での宿泊補助ということで1人1泊上限2,000円の宿泊補助とデジタルポイント1人当たり500円を補助するというところでございます。

最後に資料4枚目の裏面ということで最終ページですけども、先ほどご説明をしました宿泊税検討委員会を立ち上げるということで、検討経費を予定しております。

すべてではございませんけども主だった観光関連のものということで紹介をさせていただきました。以上です。

<高橋商工観光部長>

来年度の予算ということで少しお話をさせていただきましたけども、この点で何かご質問がありましたらいかがでしょうか。

<加藤委員>

公社の方にちょこちょこは、去年ぐらいからお願いしていたんですけど、夏の暑さが長引きすぎて、うちのお客さんはほぼほぼ、ウルトラマラソンを1週間ぐらいずらしてもらえないだろうかということを2年ぐらい前からずっと言われてるんです。暑過ぎて怖いと。だけど、やっぱり走りたい人は、あると来るんですよね。この日程を考えてもらえないだろうかということをずっと言われてまして、そちらの方よろしくお願ひしたいです。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございます。伝えておきます。

他にありますか。

<谷口委員>

愛知県湯誘客連携プロジェクトは単年度の取り組みということでいいですか。

<木本観光振興課長>

ちょっと緊急的な部分もあります。補助金の事業としては単年度で考えております。

<谷口委員>

逆に丹後から名古屋に、愛知県に宿泊した場合は何かあるんですか。

<木本観光振興課長>

逆の場合はないです、今のところ。こちらから誘客をするということで作った事業です。ただ、愛知県庁とも連携をさせてもらっていますので、今後は、そういった取り組みなんかはできたらいいかなとは思っております。

<高橋商工観光部長>

その他はいかがですか。

<山口委員>

私は40年前に丹後に来て、岐阜弁と丹後弁が似ていると確信した1人ですので、愛知県だけではなく、岐阜もぜひしていただいたら友達も呼びますので、よろしくお願いします。

<高橋商工観光部長>

わかりました。確かに言葉が似ているかもしれません。ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、何か皆様の方から、それぞれ団体からもご参加いただいと申しますので、何か情報提供いただけるようなことがもしあれば、ご発言をいただきたいなというふうに思いますけれどもいかがでしょうか。

<田矢委員>

丹後王国です。明日3月20日、11時から式典があるんですけれども、以前の、丹後王国タワーがありました場所に大型遊具、北近畿最大級のすべり台と、ふわふわ遊具というのが、スタートいたします。春休みでもございますので、またぜひご家族でお越しいただけたらと思います。あわせて、春休みの期間中は春の丹後フェアということで、イチゴを中心にですね、各店舗で季節限定のメニューも出しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございます。その他、いかがですか。

<伊豆田委員>

この会議のあり方についてなんですけど、議事に進捗についてと、全体の前回の振り返り

になってるんですね。観光立市推進会議なのに、進捗についてからしか語れない場というのはすごくもったいない感じがするんです。進捗はがんばってされてきたことなので、それに対して意見ありますかと言われても、やっぱりがんばっておられますねと。それもあるけれど、立市のために何の推進ができるかということのをそれぞれの立場の方が、何か、もっと話したものを集約したやつが、あり方についての意見の振り返りでないと、少し時間がもったいない会議になってるんじゃないかという気がします。なので、もし進化することができるのであれば、もう事前に資料は読んでおいてねと。それを踏まえて、どういう意見が皆さん各ご専門でありますか、という会議にしてもらえると、もっと濃くディスカッションができるかなと思います。以上です。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございます。そのような形で進めたいという思いはありますが、直前に資料ができてしまって、説明をしてしまうということになってしまうので、そこは事務局のあり方含めて、今後検討させていただきたいと思いますし、ぜひ皆さん方からのご意見をこの場で言っていただく場にしたいという思いでおります。従って、それぞれの思いを持ちながら来ていただいているかというふうに思いますので、その思いをこの会議の中で、言っていただいて、そこで身のある形にまとめていけるような形が、望ましいと思っております。

会長さんを差し置いて話をしてしまいましたけれども、そのような形がいいかなというふうに思っておりますので、大変いいご意見いただきましてありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは大体時間になって参りましたので、これで、ご意見も今日のところは尽きたということで終わりとさせていただきたいと思います。

閉会にあたりまして、田中副会長の方からご挨拶をいただきたいと思います。

<田中副会長>

皆様、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。スムーズな議事進行へのご協力ありがとうございました。

二季型の問題に加え、そこに今、高速が付くんですけれども、日帰り客が増えてるとかいうところで、通過点にならないように、たくさんの、コンテンツがあるんですけれどもそこを本当に、どう整理していくのかっていうところが問題かなと思います。

山口さんが言われたように、本当にゆっくりのんびりというか、東京から一番遠い町という部分も大きなアピールの材料になるのかなとも思います。

先日、稲取というか伊豆の方に、つるし飾りを見に行かせていただいて、ふじのくに茶の都ミュージアムに立ち寄って、有松搾りに寄って帰って参りました。有松は愛知県で、いち早く、愛知県に京丹後をアピールして帰ってきたところです。日本遺産の取り組みをやっておられるところです。

TANGO OPEN CENTER でも、ちりめんの歴史があつて、人々の暮らし、歴史文化がたくさんある中で、そこから機械金属という発展にスムーズに移行を遂げている先進的な地だといふところも伺っております。そのような、地の文化というか、目に見える 1 つのものが、TANGO OPEN CENTER にはありますし、郷土資料館が来年の 3 月に宮津市の府中にできますけれども、TANGO OPEN CENTER を核としての観光のあり方も、そういう動き方も出てくるのかなど。

知事選が目の前ですけれども、京都府さんはしっかりと京丹後の方を見据えていただいて、私たちにお力を貸してもらえると嬉しいのかなと思います。

皆さん大勢、各分野からお集まりですので、今後ともいろんな情報を持ち寄っていただいて、京丹後の活性のためにお力添えいただけたらありがたいと思います。

今後とも引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

<高橋商工観光部長>

どうもありがとうございました。

今のお話に関連することで、今日は丹工さんがお休みではありますが、TANGO OPEN CENTER が土日営業を開始するというので、4 月 25 日の土曜日からは、まず組合員さん向けにオープンをしていきたいというふうにお話を伺っています。

本格オープンをお待ちしているというふうにお聞きをしておりますので、この土日からは、皆さん方に来ていただけるような、そういう方向で今動いているということだけご報告させていただきます。

どうもありがとうございました。

それでは、本日大変お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。

お疲れ様でございました。